

研究タイトル:

日本文芸史の話型論的研究



氏名: 伊勢 英明 / ISE Hideaki E-mail: ise@sendai-nct.ac.jp

職名: 教授 学位: 修士(文学)

所属学会・協会: 日本文芸研究会, 中古文学会, 日記文学会

研究分野: 日本文学

キーワード: 話型, 貴種流離譚

技術相談
提供可能技術:
 ・日本文芸史の講述
 ・日本語による文書の作成法
 ・『百人一首』の講述とカルタの実践方法

研究内容:

研究課題

日本文芸史における話型の展開の具体相の考究および話型論的視点からの日本文芸史の構築
映画と文芸の話型的相関性の考察

研究シーズ

話型とは言語における文法のようなものであり、文芸作品を成立させている基本的な骨組みのようなものである。作者自身が意識的に話型を用いる場合もあるだろうが、その多くはむしろ無意識的に用いられていることが多いと思われる。

話型は形式的なものであるため、内容と違って時代の影響を受けることはあまりなく時代を超えて存在するが、逆にそのことから、共通する話型の作品を比較することによりそれぞれの作品の時代性や特殊性が浮かび上がるのではないかと。そういう問題意識に立って、数ある話型のうち特に貴種流離譚という話型を取り上げ、時代ごと作品ごとどのような肉付けがなされているかを具体的に考察し、またそうした作業を通じて話型論的視点からの日本文芸史の構築を試みているところである。

また、映画においても文芸と同様の話型が抽出される場合があり(アニメ映画『宇宙戦艦ヤマト』、『赤い橋の下のぬるい水』など)、その場合にどのような作品解釈が可能になるか、また小説が原作になった映画において話型が変更されているか、されている場合どのような影響があるか、そういった問題にも今後考察の測鉛を降ろして行きたいと思っている。

<参考文献>

- 「芥川龍之介『蜜柑』試論——貴種流離譚的構造をめぐって——」(『仙台電波高専研究紀要』第23号)
- 「夏目漱石『坊つちやん』試論——反貴種流離譚的構造をめぐって——」(『仙台電波高専研究紀要』第27号)
- 「『竹取物語』試論——貴種流離譚的構造をめぐって——」(『仙台電波高専研究紀要』第30号)
- 「『伊勢物語』における貴種流離譚的構造について——「東下り」章段群および「芥川」章段をめぐって——」(『仙台電波高専研究紀要』第35号)
- 「『古事記』所載物語における貴種流離譚(一)——反復する構造をめぐって——」(『仙台電波高専研究紀要』第36号)
- 「『古事記』所載物語における貴種流離譚(二)——反復する構造をめぐって——」(『仙台電波高専研究紀要』第37号)
- 「『古事記』所載物語における貴種流離譚(三)——反復する構造をめぐって——」(『仙台電波高専研究紀要』第38号)

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)